

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	日本語総合	
科目基礎情報							
科目番号		1113G01		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		一般教養		対象学年		3	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		高専日本語アビリティⅠ・Ⅱ（阿南高専）／常用漢字ダブルクリア（尚文出版）					
担当教員		坪井 泰士, 錦織 浩文					
到達目標							
1. 他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させて説明できる。 2. 類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に活用できる。 3. 古文・漢文の時代背景を説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)	
到達目標1		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを適切に整理し、深化させて適切な表現スキルにより説明できる。		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを適切に整理し、深化させて説明できる。		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させて説明できる。	
到達目標2		類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に効果的に活用できる。		類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に適切に活用できる。		類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に活用できる。	
到達目標3		古文・漢文の時代背景を理解し、文化的価値を適切に説明できる。		古文・漢文の時代背景を理解し、文化的価値を説明できる。		古文・漢文の時代背景を説明できる。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 C-2							
教育方法等							
概要		科学技術に関するものを含む広範囲な日本語を対象に、より高度な理解、柔軟な発想・思考、豊かな口頭表現を含む効果的なコミュニケーションや主体的な表現ができることを目的とする。					
授業の進め方・方法		授業は、表現に関する実践を基本とする。また、古文・漢文の鑑賞により社会を見つめる視野拡大の起点を獲得し、社会的データの活用や漢字学習により理解・表現の力を培う。 【授業時間30時間】					
注意点		毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること（マンガ、雑誌、テキストを除く）。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 情報の信頼性		シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。 情報の信頼性の確保について説明できる。		
		2週	情報の収集と分類		ブレーンストーミング法、K-J法について説明し、実践できる。		
		3週	口頭表現		口頭表現の特徴について説明できる。		
		4週	プレゼンテーション		プレゼンテーションスキルについて、説明できる。		
		5週	プレゼンテーション		情報を収集・選択・活用し、図表を用いたプレゼンテーションシートを作成できる。		
		6週	プレゼンテーション		図表を用いたプレゼンテーションを実践できる。		
		7週	漢字と仮名		漢字とかな等について、説明できる。		
		8週	前期中間試験		学習のまとめ		
	2ndQ	9週	答案返却 小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。		
		10週	小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。		
		11週	小論文		情報を収集・選択・構成し、論理的に意見を述べることができる。		
		12週	古文		枕草子・方丈記・徒然草の背景・大意を説明できる。		
		13週	古文		枕草子・方丈記・徒然草を暗唱できる。		
		14週	漢文		論語の背景・大意を理解し、暗唱できる。		
		15週	グループ・ディスカッション		グループ・ディスカッション技法を理解し、実践できる。		
		16週	答案返却		学習のまとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。		3	前9,前10,前11,前16
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。		3	前6,前7,前9,前10,前11

				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前6,前7
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前4,前5,前9,前10,前11,前15
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前1,前4,前8,前9,前10,前11,前15,前16
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前1,前4,前5,前8,前9,前10,前11,前15,前16
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前4,前5,前8,前9,前10,前11,前15,前16
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前3,前4,前5,前8,前9,前10,前11,前15
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前2,前8,前9,前10,前11,前15
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前2,前7,前8,前9,前10,前11,前15
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前2,前8,前9,前10,前11,前15

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	35	0	60	5	0	100
基礎的能力	35	0	50	5	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	10	0	0	10